

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		オンライン砺波C					公表日	2025年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		新施設になり、学習スペースや遊びのスペースが以前よりも広く確保されたことで、子どもたちがいつものびのびと活動できるようになった。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員の配置数が足りない例外事態が発生したときは、事業所間で調整を図って解決している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚スケジュールを徹底して活用することで、生活空間は子どもから見ても大人から見ても分かりやすく構造化された環境になっている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		施設内は全面に弾力性のマットが敷き詰められ、子どもたちが活動しやすい環境となっている。また施設内は毎日清掃と消毒を欠かさず清潔さを保っている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		静養のための個別スペースを確保している。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		全職員参加のミーティングを毎日実施しており、なおかつ誰もが意見を言いやすい環境作りに努めている。	職員間のコミュニケーション円滑化のために引き続き努力していく。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		会社の年間スケジュール表に各種研修が組まれており、会社が実施を義務づけている。実施できたかどうかのチェックもある。			
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		社内で繰り返し議論をして支援プログラムを作成し、HP上で公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		リタリコのアセスメントシートを用いて児童ごとにアセスメントを実施しており、その結果を基に個別支援計画を作成している。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			個別支援計画作成に当たり全職員参加の個別支援会議を実施しているが、現状は必ず実施できているわけではない。今後は必ず実施できるようにスケジュール調整に努める。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			共有されているが、必ずしも十分に活用されているとは言えないかもしれない。今後は日々の支援記録の取り方をより計画に沿ったやり方に改める。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		リタリコのアセスメントシートと日々の支援記録を用いて確認している。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		全職員参加の日々のミーティングで話し合って作っている。			

適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	△			例えば体幹運動の内容を月・水・金と火・木で違ったものにするなどが考えられる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動は学習、集団活動はデジタルゲームのマルチプレイ機能を使った活動が全児童共通で、それらを盛り込んだ計画を作成し、支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	△			日によって打ち合わせが十分にできていないことがあり、毎日必ず実施できるよう、業務内容を精査し優先順位を再確認する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	△			日によって打ち合わせが十分にできていないことがあり、毎日必ず実施できるよう、業務内容を精査し優先順位を再確認する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		児童ごとの支援記録を毎回必ず取っており、全職員参加のミーティングでそれを基に話し合いをしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		プログラミングをするかどうかの選択、デジタルゲームをする際のタブレットの選択と児童間の希望の調整などを子どもたちに委ねている。またそうした調整が上手くいかないとき、何が問題なのか、どうすれば解決できるのかについて、子どもたち自身が話し合っ、共通認識を持てるように職員が導いている。	今後子どもたちが自己選択、自己決定をする場面を少しずつ増やしていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		必要に応じて実施される個々の児童についてのケース会議に管理者や自発管が必ず参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		年度替わりに各学校と必要な情報を交換している他、必要に応じて随時連絡調整をしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	△			就学児童の受け入れは砺波Aが担当しており、本事業所は砺波Aとの間で情報共有を図ることで対応しているが、今後必要があれば保育所や幼稚園等との間でも情報共有を図るようになる。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	△			これまでそうしたケースは稀であった。今後そうしたケースが出てくれば、積極的に情報提供をしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	△			今後そのような機会を持つように心がける。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	△		施設に通っていない子どもも参加できるゲームイベントを最近開催し始めた。	これまでそうした交流や活動はあまり行ってこなかった。今後ゲームイベントを続けることで地域との交流を増やしていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		グループLINEを、日々の支援の報告に使うとともに、子どもの課題についての保護者の悩みを聞いたり、それを受けて施設での子どもの様子をまとめて報告したりする等にも活用している。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	△		ゲームイベントを、家族の対応力の向上を図る場としても位置づけている。	ゲームイベントを左記の観点からもっと推奨するとともに、これ以外にも家族が参加できるイベントを企画し、その場で保護者同士のコミュニケーションが図れるように働きかけていく。研修会についても今後検討する。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	△			十分な説明をしないまま計画書にサインをいただくケースがあり、今後はモニタリングや面談の機会を活用して十分な説明に努める。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、兄弟同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		ゲームイベントへの保護者、兄弟姉妹の参加を受け付けており、実際に毎回複数の参加がある。	ゲームイベント他で保護者同士のコミュニケーションが図れるように今後もっと働きかけていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		グループLINEを苦情対応にも活用し、苦情があった場合には基本的に管理者がそれを用いて即応する体制を取っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	△			毎月の通信やHPはあるが、現在のところSNSは活用していない。HPがあることを知らない保護者もおり、今後周知していく。SNSの活用については社内で要検討。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			LINEでの報告時に間違えて他児童の写真を送ってしまうことがある。こうしたミスを極力無くする。予防方法は要検討。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。	○		施設を利用していない一般の児童や保護者も参加できるゲーム大会を企画して地域との交流を図っている。今後その機会をさらに増やしていく。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		左記のマニュアルを策定しており、避難訓練等は定期的実施している。	左記のマニュアルはあるが、保護者への周知・説明が不足しているかもしれない。方法を決めて周知・説明に努める。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		専門の委員会を社内にて設け、定期的に話し合いの場を設けている他、定期的に避難訓練等を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	△			把握できている子と把握できていない子がいる。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	△			食物アレルギーのある子が利用していない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		社内に決まった報告体制・書式があり、その中で再発防止に向けた方策を検討し記載する仕組みになっている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		会社の年間スケジュール表に虐待防止に関わる研修が組まれており、会社が実施を義務づけている。実施できたかどうかのチェックもある。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			モニタリングや面談の機会を利用して、利用者に対して事前に十分説明し了解を得られるよういっそう努める。	